



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
1962

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 中村 哲朗
幹 事 森信 秀樹

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS
「ロータリーの未来は
あなたの手の中に」

本年度会長テーマ
「ロータリーの心で周囲を包もう」

「家 族 月 間」

2009年 12 月 3 日 第1938回例会

◆ 会長時間 ◆

中村(哲)会長



と思っております。

月日の経つのは早いもので、
あっという間に12月に入りました。
これから年末にかけて
何かと慌ただしくなりますが、
お互いに事故、ケガ等に注意
し、毎日を過ごして行きたい

12月は「家族月間」であります。世界中のロータリアン、クラブ、地区は、毎年12月に「家族月間」を祝い、プロジェクト、活動、行事などの実施を通じて、家族と地域社会への献身を示すよう奨励されております。私共のクラブは、12月24日に奥様に参加頂き、夜間例会ならびに懇親会を開催いたします。

さてR I 第2710地区・前田ガバナーノミニより12月1日付けで、2010-2011年度グループ7のガバナー補佐に当クラブの安部憲明会員を任命いたしましたとの文書が届きました。安部会員におかれましては、業務が多忙の中、大変ご足労をおかけしますが、ロータリー活動の積極推進の為、貢献頂きますようお願い申し上げます。

創立40周年の記念事業として、みずとりの浜公園にトイレを設置し、広島県に寄贈いたしますが、その起工式を12月10日(木)午前9時半より現地で行います。設計監理は、堀江会員の榎クリエイト建築設計、施工は、森信会員の森信建設様をお願いすることになっております。また起工式の神事は、森協会員の住吉神社にお願いしております。起工式は、少数のロータリー関係者と広島県港湾振興事務所の方々のみで地味に行いますが、来年2月後半の竣工式は、当クラブ会員の皆さん、あるいは近隣の方々と一緒に賑やかに行いたいと考えております。

国際ロータリーからのポリオ寄付に対する感謝状を披露

(2008-09年度 1,000ドル以上)



● 会務報告

森信幹事

※2010年ロータリーカレンダーが出来上がりましたので、お帰りの際に1部お持ち帰りください。※年末年始の例会変更一覧表をBOXに配布しております。

※例会終了後、4階「松の間」において12月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

● 委員会報告

出席報告 香川委員長

本 日 (12月3日・木曜日)

会員数	84名	出席者	72名
欠席者	12名	ご来客	5名
ご来賓	1名	ゲスト	1名
		計	79名

前々回(11月19日・木曜日)

出席率 98.81%

祝 12月お誕生日おめでとうございます。

(10名)

池田君 (4日)	園尾君 (10日)
渋谷君 (17日)	諏訪(昭浩)君 (19日)
新原君 (20日)	土井君 (21日)
大本君 (23日)	川西君 (24日)
高橋君 (25日)	原 君 (26日)



● スマイルボックス

SAA 笹野委員

☺三浦君

中国新聞11月28日朝刊によりますと、松江や福山などの同業他社と連携し、インターネット経由でソフトウェアを提供するクラウドコンピューティング関連の技術開発を始めたとあります。環境がめまぐるしく変わるIT業界で市場の要求にいち早く対応し優位性を持つとの事です。目まぐるしい技術革新をリードする御社に今後も期待をしております。

☺松岡君

11月28日の日刊木材新聞に昭和2年に医療器具の製造で創業した松岡製作所が現在は金属加工技術を生かし住宅分野におけるオーダーキッチンの市場で存在感を増している、との記事があ

りました。

一般消費者のニーズが多様化する中でオーダーキッチンが高い伸びを示し、建設会社からもイベントの集客力が上がると評価されイベントにも積極的に出展されているとのこと。

今後の更なるご発展を祈念しております。

■ 卓 話



映画めぐり逢い

映画評論家

花本 マサミ 氏

映画は大嫌いという人はいないだろう。誰れもが若い一時期、

映画にのめり込んだことがあるはず。ところが映画人口は、ここ数年、1億6千万人を推移している。シネコンの増加で映画館（今はスクリーン数で表示）数は、08年で3359スクリーンとずっと右肩上がりである。各地方の商店街ではないが、中心部はシャッター通り化している現状は、映画界にもあてはまる。

広島においても、ここ数年で、リッツ劇場、朝日会館、後を引き継いだスカラ座、松竹東洋座、広島名画座、アルパークシネマ1、2、広島東映、広島ルーブルと都心部の映画館が閉館した。かつて、さまざまなジャンルの映画を上映して、我々を楽しませてくれた映画館の灯が一つまた一つ消えていった。淋しい。

1946年(昭和21年)・映画人口7億3274万人。ピークは、58年(昭和33年)の11億2745万2千人。それからはジリジリと映画人口は下降線をたどる。

テレビの普及、ビデオによる映画の鑑賞、レジャーの多様化と四面楚歌のなかで、映画は、かろうじて頑張っている。娯楽の王様・映画！といわれた時代もあったのだが。

映画会社単独の資金で映画を作ることはほとんどない。テレビ局を中心に、さまざまな企業から資金を集めて、製作委員会なるものを作って製作する方式がとられている。金も出すが口も出すという出資者もいて、監督はどうまとめようか困るという話も聞いたことがある。黒沢明、木下恵介、

溝口健二、成瀬巳喜男、今井正、小林正樹等々、巨匠と呼ばれた人たちは生まれてきそうにない。

今の日本映画は、韓国映画のパワーには完全に負けている。「シルミド」「ブラザー・フッド」「光州8・15」「チェイサー」なんて作品は観る者を圧倒する。

また、中国は、東洋のハリウッドになるべく撮影所を整備、広大なロケ地を準備、アメリカ・ハリウッドにも撮影は中国で！と勧誘に懸命である。韓国も中国も国策として、映画産業に取り組んでいる。日本映画との差はますます、ひろがりそうである。かつて、ナチス・ドイツも自国のプロパガンダのために映画を大いに利用したという過去がある。映画は国境を越えて、どの国の人にも理解してもらえるという利点がある。映画ではないが韓国ドラマ「冬のソナタ」が日本の女性の目を韓国に向けさせたように。

今年の日本映画でも映画らしい堂々たる作品は「劔岳・点の記」「禅・ZEN」「沈まぬ太陽」くらい。スクリーンの大画面をダイナミックに彩った。広島出身の女性監督・西川美和の「ディア・ドクター」も忘れがたい。

映画がなくなることはないが、心に残る映画に1本でも多く出会いたい！

「テレビは大いなる智識を与えてくれ、映画は心に栄養を与えてくれる！」。

